



第161回 芥川賞・直木賞が
決まりました!

- 【芥川賞】 石沢 麻依『貝に続く場所にて』
 李 琴峰 『彼岸花が咲く島』
 【直木賞】 佐藤 究 『テスカトリポカ』
 澤田 瞳子『星落ちて、なお』



雑誌リサイクルを開催します

9月11日(土) 10:00~

お一人様、2冊まで

感染対策のため、雑誌は少量ずつ、
ランダムに置きます。マスクの着用
にご協力をお願い致します。



図書館カレンダー (8月)

20冊・3週間 借りられます

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				



今月の展示

小説

河合隼雄物語賞

実用書

夏の手づくり

おとなも自由研究!

戦後76年



館員おすすめの一冊

『ろうの両親から生まれたぼくが聴こえる世界と聴こえない世界を行き来して考えた30のこと』

五十嵐 大/著 (幻冬舎)

“コーダ”という言葉を知ったことがありますか? コーダとは、聴覚障害のある親に育てられた子どものことです。この本は、コーダである著者・五十嵐さんが自分の境遇に悩み、葛藤した日々や前を向いて歩きだした現在、そしてこれからについて書かれています。

五十嵐さんが自身の家庭が「ふつうではない」と感じるようになったのは、小学生の時、友人に母の話し方がおかしいと指摘されたことがきっかけでした。母の存在を周囲に知られたくないと思えば思うほど、大好きだった母との距離も離れていきました。大人になり、ふとしたきっかけから参加した手話サークルで、五十嵐さんは聴覚障害者のSちゃんと出会い、彼女から自分がコーダと呼ばれる存在で、ほかにも同じ境遇にある人がいると聞き、世界が開けていく気がしたそうです。Sちゃんとの間に印象的なやり取りがあります。聴覚障害者の友人たちと食事をした際、五十嵐さんは率先して聴こえる店員とのやり取りをします。帰り際、Sちゃんから感謝とともに「できることを取り上げないで」と告げられます。自分が良いと思ってしたことは、必ずしも相手が望むこととは限らないのです。これは障害の有無に関わらず誰にでも起こりえることで、相手を知ろうとすることや意思を伝えることの大切さを改めて感じました。人との距離が離れている今だからこそ、他者との関わり方を見つめなおすヒントが詰まった一冊です。(K)



新刊紹介



この他にもたくさんあります!
貸出中の本には予約ができます

『長崎のトリセツ』		明文社
『憲法を読み解く』	渋谷 秀樹	有斐閣
『万引き』	伊東 ゆう	青弓社
『トコトンやさしい新幹線技術の本』	辻村 功	日刊工業新聞社
『1枚でかわいいワンピース』		ブティック社
『猫が歩いた近現代』	真田 将之	吉川弘文館
『影の不思議』	ウィリアム・ヴォーン	創元社
『ようこそ地獄、奇妙な地獄』	星 瑞穂	朝日新聞出版
『仮面』	伊岡 瞬	KADOKAWA
『海神の子』	川越 宗一	文藝春秋
『メッセージ』	トーベ・ヤンソン	フィルムアート社



西館日和

暑中お見舞い申し上げます。早朝から蝉の鳴き声が響き渡る暑い夏が今年もやってきました。延期されていた東京オリンピック・パラリンピックが開催されています。会場の声援に後押しされた選手が力強くプレーする姿を直接見ることができるよい機会ですが、今回は多くの競技が無観客で行われています。金メダルを目標に各国の選手が試合に臨み、メダルに手が届かなくても、選手の力強く熱い戦いには多くのドラマがあり、人々に感動を与えています。

毎年8月には、広島と長崎の原爆の日や終戦記念日に、過去の戦争の歴史を振り返り平和を祈ってきました。図書館でも展示コーナーを設け、戦争体験記など関連本を並べています。今、東京で熱戦を繰り広げている各国の選手だけではなく、世界中の人々が安心してスポーツを楽しむことができる平和な世の中であり続けることを願います。

昼も夜も気温が上昇し暑い日が続きますが、家の中で過ごす場合も熱中症にならないようご注意ください。食欲が無い時に簡単に作れる料理、涼しげな衣服の作り方、住まいの工夫、少し寒を感じる怖い話、旅行に行った気分が味わえる旅行本や写真集など、この暑い夏を少しでも快適に過ごすための本を探しに是非、図書館へお越しください。

分館長 野下